

地域社会との連携によるプロジェクト学習

金沢工業大学

金沢工業大学では、大学が実践する教育・研究の実践と社会的なニーズや課題を連携させることで学生に実践的な学習機会やスキルアップの場を提供するプロジェクト学習を教職員が一体となって実践している。この地域・産学連携プロジェクト学習を通じて地域に密着した特徴や課題を素早く、的確に発見し、地域ニーズに応えられる創造性豊かな技術者育成のための新たな教育課程の構築を進めている。

1. 教育の「地域・産学連携」導入の経緯

金沢工業大学は、人間形成、技術革新、産学協同の建学の綱領に基づき、学生、理事、教職員が三位一体となり、卓越した教育と研究の実践を通じて社会に貢献する事を経営理念として掲げている。平成7年度から「教育付加価値日本一の実現」を目指し、教育目標を「行動する技術者の育成」と明確に定め、「教員が教える教育」から「学生が自ら学ぶ教育」への転換を図り、学生が自主的・自発的に学べる環境の充実と教育を支援する組織の確立に取り組んできたが、平成17年には今後の教育研究実践の新たな戦略を検討するグランドデザインプロジェクトを発足させ、本学教育の特色化として地域社会に開かれた大学へのアプローチとして、本学が実践する教育・研究実践と社会的なニーズや課題を連携させ、学生に実践的な学習機会やスキルアップの場を提供する「地域・産学連携プロジェクト」の取組みを進めている。

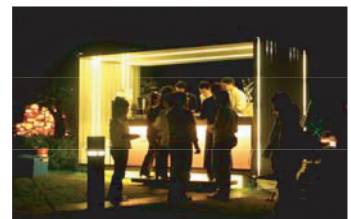
2. 教育の「地域・産学連携プロジェクト」の内容、方法、体制、成果

本取組は、「地域連携プロジェクト」により、地域に対する問題発見解決プロセスを通して、地域に実質的な活性化成果を生み出す教育プロジェクトであり、地域の、行政や観光協会などの行事や事業展開サイクルと本学独自の問題発見解決型学習プロセスを連動させ、地域における課題の把握、解決策の実践、活動の評価・改善というPDCAサイクルを継続的に行うことで、本学が実践する教育・研究実践と社会的なニーズや課題を連携させ、学生に実践的な学習機会やスキルアップの場を提供するものである。

◆月見光路プロジェクト

本学建築系学科に所属する学生約100名が、金沢市中心市街地の活性化をテーマに、自らが制作する独創的なあかりのオブジェの創作から、ライトアップイベントの実践、地域住民との交流、行政・各種団体との連携調整等を「まちづくり」の一環として実践している。学生は、プロジェクトを通じて、自らがこれまで学んできた専門知識を活用し、地方特有の中心市街地の活性化という実践的な課題に取り組んでいる。このプロジェクトには、建築系4名の教員と2名の職員が参画し、教員は学生への指導、職員は外部機関との連携調整という役割の中で運営している。

プロジェクト継続の成果として、4万人を超える来場者のまちづくりプログラムとして成長すると共に、地元の小学校や幼稚園と連携したオブジェの創作教室の開催、地域住民と共に金沢市中心市街地における夜間景観形成を学ぶフォーラムの開催等、学生の学習成果が地域の活性化へと効果をもたらしている。学生にとっては、訪れる方々からのコメントや、自らが制作したオブジェの前で写真を撮る姿から、キャンパス内では修得することの出来ない感動や経験を積むことが可能となっている。また、プロジェクトを通じての先輩や後輩・教職員との信頼関係が構築され、その後のキャンパスにおける学生自身の積極的な修学に繋がっている。



◆CirKit（サーキット）プロジェクト

本学情報学部が学生約50名が、本学が所在する野々市町にある個々の店舗の活性化をテーマに問題発見・解決に取り組むプロジェクトである。郊外大型ショッピングモール等の進出により地域に密着した商店街が衰退していく状況を課題として捉え、自らが学ぶ専門領域（ICT）を活用した解決策を創出、店舗及び周辺の地域住民に提供している。

具体的には、①個々の店舗をPRするホームページの制作、②店舗と地域住民を関連付けコミュニティを創出するSNS（ソーシャルネットワーキングサービス）の開発と運用、③店舗の個々のニーズや市場を把握するマーケティングの3点に活動領域を定め、実践的な学習機会の場を提供している。

プロジェクトの成果としては、100店舗を超える情報をホームページから配信、地域の店舗と地域住民のコミュニティを活性化させるSNSは約600名のユーザーが登録されており、その数は年々増加傾向にある。

今後は各店舗に対する効果をきめ細かく検証し、更なるサービス向上を目指すプロセスの中で問題発見、課題解決プロセスの高度化を図る予定である。

◆KITインターンシップ・プロジェクト

本学独自のプロジェクト型インターンシップであり、企業が実際に取り組んだ実績のある問題発見、課題解決の事例から、プロジェクトのテーマを創出する。学生は、連携企業の社会的背景、サービスやプロダクトの内容、強みとする技術力等の組織プロフィールへの理解を深め、テーマに基づく問題発見、解決プロセスに取り組む。

学習成果は、連携企業の担当者にプレゼンテーションを行い連携企業と指導担当教員によって評価される。最も高い評価を得た学生は、夏期休暇中に実施される企業内研修（インターンシップ）に参加する資格が得られる。プロジェクトは、全て課外学習の一環として実施され、毎年約100名の学生が自発的な修学への挑戦として取り組んでいる。

＜プロジェクトテーマの事例＞

- ・チェーン工場の省エネ対策と社員向け省エネ教育プログラム開発
- ・自社プロダクト「コージェネレーションシステム」の顧客向け導入設計
- ・データベースエンジニアのためのデータベース設計
- ・生産工場におけるホルマリンの環境対策
- ・自社パッケージソフトウェアにおける携帯電話機能の導入設計

3. 今後の課題

以上のような「地域・産学連携プロジェクト」の運営を、本学では教職員が一体となって実践している。職員の役割としては、外部機関との連携調整や教員の教育実践支援などが挙げられ、プロジェクト運営上にかかる教員の負担の一部を軽減している。今後も、教職員が一丸となってプロジェクトを運営し、社会ニーズに対応する実践的な学習機会をタイムリーに学生に提供できるよう努力を図っていく。

